

メッセージアウトライン マタイの福音書4：1～11 「悪魔の試み」

[1]「それからイエスは、悪魔の試みを受けるために、御霊に導かれて荒野に上って行かれた」

イエスはバプテスマのヨハネからバプテスマ(洗礼)を受けて、水から上がられると、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降られるのをご覧になり、そして天から声があり「これはわたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ」と告げられた。→マタイ3:17 これは父なる神の声であり、このときからイエスは世の救い主としての公生涯を開始されたのであった。

この後、イエスは御霊に導かれて荒野に上って行かれた。それは悪魔の試みを受けるためであった。「悪魔」(ギリシア語でディアボロス)とは何か？誰か？悪魔とは単なる想像上の存在ではなく、実際に存在する。この悪魔は天使(御使い)と同じように体を持たない霊的存在であり、旧約のイザヤ書14:12~15やエゼキエル書28:11~19などの預言の解釈によれば、天使の中でも最高の存在であったが、自分は神によって造られた被造物であるのに、高慢にも神のようになろうとして墮落し、神にさばかれた存在であると教えられる。ディアボロスとは中傷する者、告げ口をする者の意であり、人を誘惑し、試みに会わせ、その犯した罪や悪、欠点を神に告げ口をするのである。→ヨブ記1~2章、ルカ22:3~4、使徒5:1~3、エペソ4:27、5:11~20

悪魔は最初に神に創造された人間アダムとエバをエデンの園で誘惑して罪を犯させ、墮落させ、この世界を神の祝福ではなく、死と呪いを受けなければならない世界とした張本人である。そして今も人間を誘惑し、神に逆らわせ、神の国の活動を害する働きを続けている。この悪魔はサタン(敵対する者)とも呼ばれる。→ゼカリヤ3:1~2、マタイ4:10、黙示録12:9

そしてその配下には悪魔同様に墮落して天から落とされた天使たちが悪霊となって活動している。→ルカ4:41、8:27~33、ヤコブ2:19

この悪魔は世の終わりの時には、神の最終的なさばきを受けて火と硫黄の池に投げ込まれる。→黙示録20:10

この悪魔が世の救い主として来られたイエスの前に立ちはだかったのは当然のことであった。しかし、「御霊に導かれて」とあるように、この悪魔の試みは神のご

計画の範囲内で起こったことであり、神の許しのうちに起こったことである。

この悪魔の試みは世の救い主としてその働きに就こうとするイエスの働きを最初において挫折させようとするものであった。

[2]「そして四十日四十夜、断食をし、その後で空腹を覚えられた」

生身の人間がはたして四十日間も飲まず食わずで過ごすことができるであろうか。この断食について教えられることは、人間は精神の持ち方次第で、かなり肉体のコンディションが変わるということである。たとえば同じ十日間であっても、もう食べることができないと思う人は非常に衰弱するが、食べられないのではなく、食べないのだと思っている人は精神状態が安定しており、断食をやり終えることができるという。出エジプトの指導者モーセも、神の山に上って行きそこで四十日四十夜断食して過ごした。→出エジプト24:18 預言者エリヤも四十日四十夜の断食を経験した。→I列王19:8 それゆえ、イエスの断食も文字通り四十日四十夜であったと理解しても良いと思われる。そして当然のことであるが、この断食の後、空腹を覚えられたのである。

[3]「すると、試みる者が近づいて来て言った。『あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。』」

この時を待っていたかのように、試みる者である悪魔が近づいてきた。それがどういう姿であったのかは分からない。悪魔は天使と同様、霊的な存在であるが、「光の御使いに変装」することもできる。→IIコリント11:14

悪魔の第一の試みは食べ物の必要に関してであった。悪魔の言うことには、あなたは断食をして空腹になっているのだから、あなたが神の子ならこれらの石がパンになるように命じて食べたらどうですかというものであった。イエスがいた荒野は、ごっごつした岩や石がたくさん転がっていたのであろう。

[4]「イエスは答えられた。『【人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる】と書いてある。』」

イエスは旧約の申命記8章3節のことばを引用して悪魔に答えられた。イエスはパンの必要を認めるが、それがすべてではない。イエスの使命は父なる神からの使命(アダム以来の罪の中にあり、神のさばきを受けて死と滅びに行かなければならない人間を救う)に忠実に従うことであった。それゆえこの悪魔の勧めは、イエスが神への信頼を貫き通すことができるか、世の救い主としての使命を全うできるかということが試されているのであり、神への不信、神からの独立の勧めなのである。

パンは肉体の生命を養い、維持するためには確かに必要である。しかし、人は衣食住だけあって肉体が保たれているだけでは十分ではない。神によって造られた人間は、神を信じ、神のみことばを学び、それに養われて神のみこころに従う時に、人は初めて真のいのちに生きることができるのである。

私たちにとってはいのちのパンであるイエスを信じるまでは本当の解決はない。
→ヨハネ6:35 神に従うことこそが私たちの真の生きる道なのである。

[5-6]「すると悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、こう言った。『あなたが神の子なら、下に身を投げなさい。【神はあなたのために御使いたちに命じられる。彼らはその両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする】と書いてあるから。』」

第一の試みを聖書のことばによって撃退された悪魔は、今度は聖書のことばによって迫って来た。「聖なる都」とはエルサレムのことであろう。しかし、悪魔がイエスの体を抱いてエルサレムの神殿の屋根の端まで文字通り連れて行ったというのではなく、これは悪魔がイエスの内面の霊的な面に働きかけ、そのような幻を見せたということであろう。そして聖書が言っているように、あなたが神の子なら下に身を投げて見よ。御使いたちが助けてくれるからと言うのである。悪魔はイエスが神の子としての従順をなおも貫き通すかどうかということを試そうとしているのである。

これは詩篇91篇の11~12節の引用であるが、悪魔はこの聖書のことばの中で「すべての道で」ということばを省いている。この箇所の本当の意味は、主のみこころにしたがって歩む道にはどこでも主の守りがあるという約束であり、不必要な冒険や危険を冒すことの勧めではないのである。

[7]「イエスは言われた。『【あなたの神である主を試みてはならない】とも書いてある。』」

これは申命記6:16のことばである。イエスはこの聖書のことばをもって悪魔に立ち向かわれた。出エジプトの時代、イスラエルの民は約束の地を目指してシナイの荒野を旅していた時、途中のマサという場所で水がなくなった。彼らは指導者モーセに詰め寄り、本当に神がついておられるのかどうか、水を与えてくれるのかどうかと食ってかかったのであった。→出17章 彼らは神を試みたのである。モーセは後にこの事件を回想して、主を試みてはならないこと、主の命令を忠実に守るべきこと、主の目にかなう良いことをすること、そうすれば敵をことごとく追い払うことができると教えたのである。→申命記6:16~19

それゆえこの詩篇のことばは、神がともにいて守ってくださるのは高い所から飛び降りても支えられるかどうかという実験によって立証される性質のものではない。神がともにおられるかどうかということは、神があらわされたみことばに従って歩むときに、その道が守られ祝福されることによって立証されるのである。

[8-10]「悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、こう言った。『もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。』そこでイエスは言われた。『下がれ、サタン。【あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい】と書いてある』」

これは悪魔の第三の試みである。これもイエスの内面に働きかけた心象的光景であろう。この世のすべての王国とその栄華を見渡せるほどの高い山など実際にはない。

この試みは、悪魔に屈服することによって政治的支配、権力を自分のものとし、この世に一大帝国を造り上げたらどうかという非常に魅力的な誘惑であり、これは人間を罪から救うために、罪のない神の御子イエスが私たちの代わりに神のさばきを受けていのちを捨てるという目的からそれさせるものである。悪魔はイエスに罪を犯させ、神の救いの計画を壊して、人間を自分の支配下に置きたいのである。しかし、イエスの支配とはこの世の権力によるものではなく霊的な支配であり→

ヨハネ18:36、悪魔を抱き込み、その力を借りてするようなものではない。

イエスは申命記6:13のことばによって、荒野における悪魔の最大の試みを退けられたのである。

→エペソ6:17

[11]「すると悪魔はイエスを離れた。そして、見よ、御使いたちが近づいて来てイエスに仕えた」

悪魔は試みに失敗して、イエスを離れた。

御使いたちが来たということはイエスの勝利に対する祝福であり、神からのねぎらい、いたわりであったであろう。

今日の聖書の箇所から教えられることは、これが人間と同じようになられたイエスの内的な経験であったということであり、それゆえ、イエスが受けた悪魔の試みは私たちの受ける試みと共通するものがある。主イエスご自身、試みを受けて苦しまれたからこそ、苦しみや悲しみ、試みの中にある私たちを助けることがおできになるのである。→ヘブル2:18

誘惑に負け、戦いに倒れているあわれな私たちの魂は、この主イエス・キリストに本当の同情者、身代わり、救い主の姿を見出すのである。

私たちはこの救い主イエス・キリストに、そして神のことばに頼らなければならない。神のみことばを心に蓄え、信仰をもって試練や誘惑に立ち向かうならば必ず勝利を得ることができるであろう。→エペソ6:10～20